

ムシロ瀬：珍しい花崗岩の造形

この海岸線の一帯に連なる平らな花崗岩の巨岩は、6 千万年以上前、地下およそ 10 km で形成されました。この花崗岩は、地殻変動によって分割され、徐々に地表に押し上げられました。そして、地表で冷やされるにつれ、さらにひび割れて特徴的な姿になりました。この地域の名前は、これらの岩がムシロと呼ばれるワラで編んだ敷物に似ていることに由来します。

何千年にもわたって、風と波がこの岩を形づくり続けてきました。地元の人々が「ローソク岩」と呼ぶ岩は、あたり一面にどこか別世界のような雰囲気醸し出しています。この海岸線は、大部分がサンゴ礁に囲まれている島のほとんどの海岸とは著しく異なっています。

駐車場から岩場へ続く歩道は、200 メートルほどにわたって伸びています。風の強い日や波の高い日に水際を通る際は十分注意してください。

ムシロ瀬は、奄美群島の大部分を包含する奄美群島国立公園の一部です。

植物相と動物相

ムシロ瀬周辺の低木地は、島の人々の必要を満たす豊かな植物相に恵まれています。何世紀にもわたって、奄美の染物職人たちは、シャリンバイのピンク色の花を、この地方の絹織物「大島紬」を織る絹糸を染め付けるのに利用してきました。タコノキ科の一種であるアダンも豊富に生えています。島の人々は、アダンの葉を編んでバスケットや草履という伝統的なサンダルを作ります。